

令和2年度 北海道真駒内養護学校 実践研究について
「根拠のある学習評価を目指して」
～ 日々の授業と教育課程の改善をつなげるための仕組みをつくる ～

北海道真駒内養護学校
教諭 三井 隆行

1 目的

本校では、昨年度より「根拠のある学習評価を目指して」を研究主題とし、実践研究を行っている。

今年度は2か年計画の2年目である。この2年間の実践研究の中で、学習評価の方法、学習評価からの授業の改善、更には教育課程の改善につなげるシステムを構築したいと考えた。これらのことを整えることで、教員一人ひとりが、自信をもって授業実践を行い、学習評価ができることを目指して取り組んできた。

2 内容・方法

(1) 自立活動における学習評価について

ア. 図1のような手順で作成した。自立活動実態表は児童生徒の実態から目標設定までの過程が記載される。また、活動分析表を用いて、記録の累積を行った。それをもとに日常指導に関わる教員や自立活動教諭と連携し、複数で評価するようにした。・・・令和元年度

(2) 教科学習における学習評価について

- ア. 教科グループを編成し、研修を進めた。グループは、小中高の各学部の教員が所属するように編成(串どしグループ)した(図4)。・・・令和元年度、2年度
- イ. 教科グループでは、グループ内で分担して「学習内容構成表」、「教科の内容の発展関連図」を作成した(図2)。また、それらをもとに、本校の「指導すべき内容」を整理した。・・・令和元年度
- ウ. 昨年度作成したものを活用し、学習のねらい、評価規準を明らかにした単元計画を作成し、授業実践、授業改善を行った(図3)。・・・令和2年度
- エ. 単元計画の様式については、教科グループから出された意見をもとに、全校共通で使用する様式を決定する(図5、6)。・・・令和2年度
- オ. 授業実践を通して、授業の工夫に対する評価(授業者の評価)をまとめ、各教科の授業において、工夫すべきこと、配慮

すべきことを整理する(図6)。・・・令和2年度

カ. 必要に応じて、指導すべき内容の修正を行う(図6)。・・・令和2年度

3 研究の結果と考察

自立活動における学習評価については、「自立活動実態表」を作成することで、児童生徒の実態把握から目標設定までの手順が分かりやすくなった。また、「活動分析表」を作成し、○△×等の記録を累積したり、その際に有効な手立て、配慮事項等を記録したりすることで、児童生徒の活動ごとの達成度の確認や複数の教員での共通理解がしやすくなった。累積した記録を資料とすることで、日常指導に関わる教員や自立活動教諭と連携して、複数の目で学習評価することが重要であると考えた。しかし、事例対象児童によっては、記録の累積の仕方が記述中心の方がいいケースや活動内容を細分化した表が適しているケースがあるとの意見があり、記録の累積方法は児童生徒の実態に応じて工夫することが必要であると考えた。

教科学習における学習評価については、教科グループごと学習指導要領をよく読み、各教科で何を指導すべきかを考えることができた。「指導すべき内容」については、まだ不十分なところが多いため、実践を振り返りながら、引き続き検証していく必要がある。

また、今年度の教科グループの研修から、次の2点を年度末までに全校で確認したいと考えている。1点目は、全校共通の単元計画の様式を作成することである。既に集約したグループからの意見をもとに様式の提案を行った。2点目は、各教科の指導において、工夫すべきこと、配慮すべきことを整理することである。現在、各教科で整理しているものをまとめて、次年度より全職員が活用できるものにしたいと考えている(真駒内授業作りスタンダード)。